

令和4年2月21日

世田谷区立松沢小学校
校長 宇都宮 聰 様

世田谷区立松沢小学校
学校関係者評価委員会
委員長 中村 英代

令和3年度世田谷区立松沢小学校 学校関係者評価委員会報告書

令和3年度学校関係者評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

学校におかれましては、この報告書を今後の学校運営にご活用いただき、より一層児童の健やかな成長が図られますようお願い申し上げます。

I 調査実施時期・対象(回収数・率)

- (1) 実施時期：令和3年12月3日から12月13日まで
- (2) 実施対象：児童（5・6年生） 保護者（全児童数） 地域（学校協議会委員他）
- (3) 回収数（回収率）：児童302人（96%） 保護者760人（85%） 地域66人（66%）

II アンケート調査結果（別紙）

III 考察

（1）児童対象（5年、6年対象）

【評価の高い設問・増減が顕著な設問】

設問	評価委員のコメント
先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。 授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	教師が授業のポイントを的確に児童に示し、児童も授業に能動的に参加していることがうかがえる。 (2項目共に肯定評価が特に高い 88.4%、89.0%)
安全に気を付けて生活をしている。	コロナ禍も2年を越え、日常生活での感染予防の意識が徹底された。また、同様に事件事故を未然に防ぐ行動も身についているようである。（肯定評価 87.1%）
学校が好き。	「学校生活は楽しい（肯定評価 83.4%）」だが「学校が好き（肯定評価 69.6%）」ではない児童が約14%おり、「学校が好き」では“わからない”を含む否定的評価が3割ある。注意深く推移を見守りたい。 (“わからない”を含む否定評価 30.1%)
区立中学に関する情報が提供されている。	肯定的評価は昨年39.7%から微増した。ただし、否定的回答が25.1%、「わからない」回答も33.1%残った。引き続きの指導が必要である。（肯定評価 41.8%）

1 学習指導について

「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。（88.4%）」「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある（89.0%）」の2項目が全項目の中で肯定的評価が一番高く、それ以外の2項目の「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している（84.4%）」「先生は映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている（87.3%）」も80%以上の肯定的評価となった。教師の指導が児童に的確に伝わり、また、児童の自発的な学習を促している様子がうかがえる。

2 生活指導について

「私は、学校のきまりを守って、行動している（74.8%）」「学校のきまりを守らない児童に先生は注意している（84.8%）」「先生に注意されたことは、理解できる（84.7%）」となった。児童自らが学校のきまりに従って行動しているだけでなく、誤った場合は教師の指導を理解し、受け入れていることがわかる。

3 学校行事について

「学校行事は楽しい（80.8%）」「学校行事は達成感がある（74.2%）」となり、学校行事の設問には高評価が続いている。なかでも、「先生は、児童の意欲を大切にしている（79.8%）」は昨年比約12ポイント増となり、より児童を尊重した指導であったことが推察される。

4 キャリア教育について

今年度で2回目を迎えた自身の将来に関する項目。「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある（75.1%）」「目標を持ち、その実現に向けて努力している（77.1%）」からは、自分自身の将来の目標に向かって前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。

「区立中学に関する情報が提供されている（41.8%）」は、昨年39.7%から微増した。ただし、否定的回答が25.1%、「わからない」回答も33.1%である。「わからない」回答は、5年生43.3%、6年生24.8%。今後、若い学年を含めた交流を増やすなどの新しい取り組みも必要ではないか。

5 先生について

「先生たちは、ていねいに指導してくれている（85.7%）」は昨年（77.9%）から約8ポイント、また「先生たちに相談できる（71.5%）」は約15ポイント改善された。特に「先生たちに相談できる」は一昨年（57.2%）、昨年（56.1%）と評価が上がらず、課題となっていた項目だったが、児童への日頃の細やかな接し方等により懸案が解消してきた。

6 学校全体のことについて

新型コロナウイルス感染予防による制限付きの学校生活も2年目を迎えたが、「学校生活は楽しい（83.4%）」は昨年（75.5%）比約8ポイント増となった。感染予防対策をしっかりと講じた上で、行事などが動きだしたことにより、学校生活がよりいきいきとなったのではないか。学校の、感染対策と学校生活の充実に対する絶妙なバランスによる運営に対する高評価である。しかし「学校が好き（69.8%）」では、「学校生活は楽しい」が「学校が好き」ではない児童が約14%おり、“あまり思わない”“思わない”“わからない”回答が3割あることは留意すべきであろう。「私は、家庭で宿題やキュビナでの学

習をしている(64.9%)」「私は、塾で学習している(69.5%)」はいずれも半数以上が家庭学習や通塾をしていることが分かる。個々の事情は異なるかもしれないが、児童の些細なサインを見逃さないようにお願いしたい。

7 自分のことについて

「『松沢小学校スタンダード』が身に付くように努力している(63.8%)」「気持ちのよいあいさつをするようにしている(80.8%)」「安全に気を付けて生活をしている(87.1%)」「運動に意欲的に取り組んでいる(71.1%)」「相手の気持ちを考えて行動している(84.8%)」のいずれの項目も前年からの改善(2.6~11.2 ポイント)が見られる。

コロナ禍でままならない日常を過ごす児童が、落ち着いて前向きに取り組めているのは、多くの時間を共に過ごす教職員の皆さまの模範的な行動があるからであろう。感謝を伝えると共に、引き続きの指導をお願いしたい。

(評価委員：吉見明樹・川村由美)

(2) 保護者対象

【評価の高い設問・増減が顕著な設問】

設問	評価委員のコメント
本校は映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている	肯定的な回答が昨年度の 43.2%から 74.1%に大幅に改善。保護者からは状況が見えにくかった昨年度に比べ、幅広く活用されるようになったことが改善につながったと思われる。
学校行事は子供にとって楽しい	9割超え(96.2%)の驚くべき高評価が継続。コロナ禍でも工夫しながら思い出に残る体育学習発表会や音楽会、遠足、移動教室等が開催されたことが評価された。
本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している	昨年度に続き 95.9%と高評価。新しい生活様式の定着に伴い、保護者からホームページにアクセスする機会が格段に増え、情報を得ることが可能となった。
本校の学校生活は、子供にとって楽しい	昨年度に続き 91.4%の高評価。授業や行事、植物や野菜作りなどの課外活動に取り組む教員や地域の方の支援があった。

1 学習指導について

全項目 8割程度の高評価。特に「本校は映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている」については肯定的な回答が昨年度の 43.2%から 74.1%に改善した。学校でのプログラミングや通常授業のノートの共有、学校と家庭をつなぐオンライン授業、家庭でのロイロノートの使用等、幅広く活用されるようになった。「本校は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している(72.4%)」や「授業では、子供が考えたことを話し発表する機会がある(84.6%)」も改善した。新しい生活様式で状況が大きく変化する中、柔軟に対応しながら授業を進めてくださる先生方のおかげと感謝する。

2 生活指導について

肯定的な回答が昨年度 7割弱から 8割超に改善。保護者が学校を直接訪れる機会がなかった昨年度に比べ、コロナ禍でありながら、学校公開や保護者会の機会を工夫して作ってくださったために、実態を把握することができた影響とみられる。

3 学校行事について

「学校行事は子供にとって楽しい」について、96.2%と驚くべき高評価が継続。コロナ禍でも工夫しながら思い出に残る体育学習発表会や音楽会、遠足、移動教室を開催してくださったことなどが評価されたとみられる。「子供の意欲を大切にしている」からこそ子供が楽しみ、「達成感を感じる」ことができていて、学校行事を開催してくださった先生方に感謝する。コロナ禍が落ち着き、従来の向き合っての給食や掃除当番、他クラス・異学年交流、子供まつり等のイベントが復活することへの期待も高まる。

4 キャリア教育について

「本校では、子供の生き方や将来のことについて考える授業をしている」の肯定的な回答が 61.2%、「わからない」が 22.6%と全項目の中で一番多かった。将来の目標を見据えた課題なども見受けられるが、キャリアパスポートの活用も保護者からは見えにくかったとみられる。通常授業だけでは難しく、課外授業等を通して育まれる印象があるため、コロナ禍の現状では難しい面があると察する。

5 教職員について

「本校は、子供のことを相談しやすい」は肯定的な回答が 81.9%と昨年度と同程度の評価を維持。コロナ禍で維持の体制をとっていただいたことに感謝する。

6 全般について

「本校の学校生活は、子供にとって楽しい」は引き続き 91.4%と高評価。「本校の教育活動に満足している」保護者も 83.9%で、授業や行事に尽力してくださる先生方や、植物や野菜作り等の課外活動に協力くださっている地域の方に深く感謝したい。「子供は、家庭で自主的に学習をしている」では「あまり思わない」「思わない」といった否定的な回答が 33.3%と他項目と比べて多かった。家庭での学習の課題は根深い。

7 学校からの情報提供について

「本校は、様々なたよりなどで、保護者に情報を提供している（95.5%）」と「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している（95.9%）」は、昨年度同様の高評価。新しい生活様式の定着に伴い、保護者がホームページにアクセスする機会が格段に増えた。きめ細やかに対応してくださる先生方に深く感謝する。一方「『学び舎』について情報が提供されている」は肯定的な回答が昨年度に続き 54.3%と他項目に比べ低かった。昨年度に続き赤堤小学校や松沢中学校との交流が減っていることも一因か。ただ、この項目の低評価が学校への評価の低下にはつながらないと考える。

8 学校運営について

「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」は昨年度に続き 87.1%と高評価。算数の習熟度クラスや体育学習発表会・遠足・移動教室等の行事では特に、協力体制を感じができる。「教えて、校長先生！」の取り組み等でも校長や本校の教育活動について保護者がさらに理解を深めることができた。

9 家庭と学校との連携について

「学校行事、PTAなどに進んで協力している」は肯定的な回答が 59.1%と他項目に比べ低かった。昨年度同様、コロナ禍により、保護者がかかわる取り組みが減っているとみられる。校外班のパトロール活動が強制でなくなったことも、協力していないと感じている一因か。行事ごとのボランティア募集やHPクリエイター等の発足もあり、自発的な活動が施行されているが、多くの保護者がすすんで協力できるような方法を更に検討していきたい。

10 地域との連携について

昨年度に続き、肯定的な回答が 7～8割程度。コロナ禍により課外活動が制限されたり、ボランティアスタッフやゲストティーチャーが減少したり等で、地域連携が感じられにくかったことが背景にあるとみられる。

11 学校の安全性について

昨年度に続き、安全性への評価は 8～9割と高評価。警察署との連携による交通安全指導や避難訓練の充実、消毒・三密回避の徹底、危機情報の保護者への緊急連絡メール発信等の安心感が高評価につながっていると察する。

12 松沢小独自項目

いずれの項目も肯定的な回答が 6～7割とわずかに改善。あいさつ・いのち・相手を思いやる言葉は、家庭での指導を問われる項目でもあり、引き続き保護者として意識し、向上を目指したい。反抗期を迎える子供の対応も含め、学校との連携を取りながら丁寧に指導していきたい。

〈全体的なコメント〉 コロナ禍で多くの制限が課される中、真摯に対応してくださる先生方や地域の方々に感謝しつつ、今後もわかりやすい情報提供をお願いしたい。

(評価委員：大島友佳子・宮元智美)

(3) 地域の方々対象

【評価の高い設問・増減が顕著な設問】

設問	評価委員のコメント
学校行事の内容は充実している。	肯定的評価95.2%。様々が行事を工夫しながら実施していることが地域からも感じられる。これからも益々充実するための取り組みを継続してほしい。
学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。	肯定的評価96.9%。安心・安全は学校の内外で地域とともに作り上げている。地域とも益々連携し、安心・安全な学校を継続して作り上げてもらいたい。
子供たちは、楽しそうに学校に通っている。	肯定的評価97%。通学できる喜び、先生や友だちに会える喜びを児童の様子から伺えることは非常に好ましい。地域でも、子供たちが安心して街を歩き、公園等で遊べる環境作りも合わせて続けていきたい。

本校は商店街の中心とも言える位置にあり、町会、自治会、多くの商店街関係者の方々や学校関係の委員、近隣の幼稚園、保育園、介護団体などに日頃からご協力をいただいている。皆様からの学校へのご支援に感謝申し上げます。

1 生活指導について

地域の方々が児童を見る機会が多いのは、登下校の時間である。児童は概ね交通ルールを守っていると評価している。今後も学校からの定期的な指導と、地域の多くの目で児童の見守りを継続願いたい。

2 学校行事について

コロナ禍でどの行事も難しい判断が求められている状況下、高評価となったことは素晴らしい。現状のできる範囲で工夫しながら充実した行事を行っていただきたい。

3 地域との連携について

当校は下高井戸商店街の真ん中にあり、下高井戸商店街振興組合の運営とも歴史的にも密接に関わっている。きはだ学級では商店街で買い物学習を行い、商店街をまち歩きしながら色々な体験を行った。2年生では街を探検する授業を行い、商店街の中にあるお店を探検し、新しい発見ができた。地域の特徴を活かし商店街と連携している事が伺える。

また、商店街の中にあるお店、北海道中川町とも長年連携しており、中川町教育委員会とも様々な取り組みをしている。今年も送っていただいたジャガイモは調理実習で、カボチャは学校給食で利用している。松沢小運営委員会が主催するどきどき土曜スクールでは、中川町から講師を呼んで、地産の木のコースター作りやシカの角で作ったキーホルダー作りを体験し、楽しい取り組みを実施している。

4 学校の安全性について

安全への取り組みとしては、通学路の安全を確保するために、警察、道路管理者、教育委員会、PTA、学校で合同の点検を行った。横断歩道や止まれの表示、グリーンベルトの色が薄くなっている所などがあり、塗り直してもらったりした。また、交差点などで危険を感じる所には注意喚起を促す看板を設置した。これからも関係諸機関と連携を図りながら、児童が安心して登下校できる環境を整えていく予定。

5 学校運営について

コロナ禍で非常時の運営となったにもかかわらず、良い評価を得ている。これからも地域運営学校として、地域の意見を取り入れた事業活動の継続をお願いしたい。

6 松沢小独自項目

「子供たちは、挨拶ができる」

評価は7割を得ている。家庭、地域、学校で挨拶などの円滑なコミュニケーションを通じて安心安全に過ごせる環境づくりが大変重要で、子供たちへの指導をいただきつつ、地域の方々にも買い物や散歩の合間に子供達の様子を見守っていただき、双方で継続的に作り上げていく関係作

りが大切だと考える。コロナ禍で地域の行事が中止になったりして、地域の方々と学校の先生方や児童との交流する機会も減りがちではあるが、工夫しながら取り組んでもらいたい。学校には継続してご指導をお願いしたい。

「子供たちは、楽しそうに学校に通っている」

ほぼ10割に近い高評価となった。コロナ禍で難しい状況が続いているが、通学できる喜び、先生や友だちに会える喜びを児童の様子から伺えることは非常に好ましい。地域の方々には、これからも温かく見守ってほしい。

(評価委員：石井健夫・新野隆憲)

IV まとめ

本年度のアンケート結果の評価を、「評価の高い設問」と「評価の低い設問」に区分して、それぞれの評価内容を総括した。特に〈表-1〉と〈表-2〉は、「児童」「保護者」「地域」のアンケート結果の項目の中で、最も顕著な結果が現れたものである。「評価の高い設問」は、松沢小学校の最も優れた特色であり、「評価の低い設問」は次年度における優先課題となるものである。

1 今年度の評価結果に関する成果と課題

〈表-1〉 【評価の高い設問】

区分	設問	評価委員のコメント
児童	先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。	教師が授業のポイントを的確に児童に示し、児童も授業に能動的に参加していることがうかがえる。（2項目共に肯定評価が特に高い88.4%、89.0%）
	安全に気を付けて生活をしている。	コロナ禍の特別な環境で学校生活をおくるにあたり、安全に対する認識が高まった。（87.1%）
保護者	学校行事・情報提供に関して。	9割越えの高評価。コロナ禍における各種行事やホームページなどによる情報提供が評価された。
地域	子供たちは、楽しそうに学校に通っている。	ほぼ10割に近い高評価。通学し、先生や友だちに会える喜びを児童の様子から伺えることは非常に好ましい。継続的な温かい見守りが大切。

児童からは、能動的に授業に参加している様子やコロナ禍の中で安全に対する認識の高まりが確認できた。保護者からは、学校行事やホームページなどを通じた情報提供が、前年度に続く高評価となり、学校生活全般への満足度の高さが読み取れる。また、地域からは、楽しそうに学校に通う子供たちの様子が報告されるとともに、前年度に統いて「情報提供」と「安全性」への信頼が読み取れる。

〈表-2〉 【評価の低い設問】

区分	設問	評価委員のコメント
児童	区立中学に関する情報が提供されている。	「区立中学に関する情報が提供されている(41.8%)」は、昨年 39.7%から微増した。ただし、否定的回答が 25.1%、「わからない」回答も 33.1%である。
保護者	私は、今年度の学校重点目標を理解している。	今年度の学校重点目標はホームページにも掲載されているが、肯定的回答が 5割であった。
地域	特になし	特になし

「評価の低い設問」は、前年度に引き続き児童の「区立中学に関する情報が提供されている。」であった。学年別にみると 6 年生の「わからない」回答は 24.8%、否定的回答は 30.3%（「あまり思わない」(18.8%)、「思わない」(11.5%)）である。6 年生になるまでに、区立中学の情報が最低限でも伝わるとよいと考える。また、保護者の「私は、今年度の学校重点目標を理解している。」も否定的回答が 5 割となつた。重点目標はホームページに掲載されているが、見落とされている可能性がある。あるいは、その年ごとに学校重点目標があるということ自体が一部の保護者に伝わっていない可能性がある。どちらも情報の伝え方の工夫次第で改善が見込まれる項目であるため、次年度の改善事項として検討願いたい。地域からの指摘は特になかった。

なお、前年度は、評価の低かった設問に、保護者の「映像やタブレットを工夫し、わかりやすい授業をしている」（肯定的回答は 4 割程度）があり、評価委員会より「継続的な交流活動の中での抜本的な見直しを望む」との指摘がなされた。本年度は、この点に大きな改善がみられ、保護者からの肯定的な回答は 7 割強となつた。

その他、児童の「学校生活は楽しい(肯定評価 83.4%)」という結果からは、松沢小学校での現在の学校生活を多くの児童が楽しめている状況が確認できる。他方で、児童の「学校が好き」では否定的評価が 3 割となっている（「あまり思わない」(13.2%)、「思わない」(11.6%)、「わからない」(5.3%)）。学校が好きではないという場合、そこには時に大人の想像を超える理由がある場合もある。朝起きることがつらい、食が細く給食の時間がつらい、学校のなかの音（子供たちの声）がつらい、そもそも集団生活が苦手というようなケースも想定できる。学校で対応できる範囲を超えたところに、児童の苦手や嫌いがあるケースもあるということだ。

集団生活では、多数の意見に同調しなければいけない雰囲気が自然とできあがってしまうものである。そうした中、何かを好きになれない気持ちを正直に表現できることは子供の成長にとって大切なことのようにも思える。環境への過剰適応によって、自分は何が嫌いで何をされることが嫌なのかといった自分自身を守る感覚を失ったまま成長するケースもある。ネガティブな感情を表現しても、ポジティブな方向に誘導されることなく、嫌だという気持ちを「そういう気持ちもあるよね」とそのまま受容してもらえる環境もまた教育の場には必要だろう。児童のより正確な状況を把握したい場合はアンケート内容の調整が必要であり、次年度に向けて委員会の方で検討したい。

2 総合所見

2021 年度は長引くコロナ禍での一年となった。先の見通せない状況が続くだけではなく、学校現場では、感染者の拡大局面と感染者の減少局面において、それぞれに異なる迅速な対応が求められた年度であった。しかしながら、アンケートの結果として特筆すべき点は、児童・保護者・地域とともに、

全体的にかなりの高評価となったことである。評価の低い項目についても、学校の教育活動にとって本質的な問題といえるものではなかった。校長・副校長先生をはじめ、教職員の皆様のご苦労は並大抵なことではなかったと思われる。

対面での取り組みが制限される中、児童・保護者・地域の方との交流の機会も減り、個々人がどのような思いを抱えて日々を送っているのかわかりにくい。こうした状況で実施された本年度の学校関係者評価アンケートでは、児童からも、保護者の方からも、そして地域の方からも、松沢小学校の活動への肯定的な評価と信頼を読み取ることができた。アンケートは人々の思いや考えを集合的に把握する貴重な機会である。回答に快く応じていただいた皆様に感謝するとともに、今後も本委員会によるアンケートが、児童、保護者、地域の皆様、教職員といった異なる立場で学校教育に関わる人々の思いをつなぐ場になればと願う。

世田谷区松沢小学校 学校関係者 評価委員会

委員長 中村英代（日本大学文理学部・社会学科）

委員 石井健夫・新野隆憲・吉見明樹・川村由美・大島友佳子・宮元智美